

IV. 学生支援

1. 入学に関する支援

(1) 建学の精神・教育理念及び教育の目的・目標の明示

受験生が本学の基本理念である建学の精神、教育方針を十分理解し、かつ、入学者選抜方針及び多様な選抜方法を理解できるよう、以下の資料等を受験生及び高等学校に示すとともに、受験生専用ホームページに掲載している。

1) アドミッションポリシー

a. 情報処理学科

ICTで創りたい人、頼られたい人をお待ちしています！

- パソコンを使いこなせるようになりたい人
- インターネット、携帯電話などのモバイル機器、デジカメなどのデジタル家電等の新しい流れに関心のある人
- パソコンやインターネット等の仕組みや新しい技術を深く学んでみたい人
- コンピュータグラフィックスやアニメーション・動画作成に関心のある人
- オフィスや医療事務の現場で最先端のICT機器を活用して活躍したい人
- 学んだ知識を活かし四年制大学への進学を希望する人

b. 国際文化学科

積極的に外に向けて発信したい人を待っています！

- 語学力を活かし、より価値のある人生を歩みたいと願う人を歓迎します
- 観光ビジネス分野で夢を実現したいと願う人を歓迎します
- スポーツ活動において、マネジメントの重要性に共鳴している人を歓迎します
- 本学での学修を活かし、さらなる学びを考えている人を歓迎します

2) 「CAMPUS GUIDEBOOK」

受験生に対し、本学の教育理念・目的・目標を理解してもらうため刊行した(装丁はA4判、36頁)。2014年度版には、学科・コース紹介及び本学の教育に関する取組みについて及び就職・編入学・資格取得サポート体制についての説明。また、卒業後の進路及びキャンパスライフ等を掲載した。

3) 募集要項

本学入学者選抜方針及び多様な選抜方法を十分理解してもらうため刊行した(装丁はA4判、40頁)。下記の各入試に関して「入学試験概要」、「試験日程」、「選抜方法」、「出願資格」、「出願手続」、「出願書類」、「出願上の注意」、「合否発表」等を掲載した。

また、本学入学受入方針として募集要項の後半部分に「CORE」として掲載するようにした。

なお、付属推薦入学試験は学園内共通の募集要項として、法人で別に作成し配布している。

4) オープンキャンパス及び学校見学

受験希望者や関心のある生徒及び保護者や高校教員の参加を募り、本学において施設見学や学修分野の紹介、個別相談や在学生との交流などを複合させたオープンキャンパス(7月:1回、8月:2回)・学校見学会(4月:1回、5月:1回、6月:2回、7月:2回、9月:2回、10月:1回、11月:1回、12月:1回、1月:1回、2月:1回、3月:2回)を開催した。また、都合のつかない参加希望者には、随時学校見学を受け付けて対応している。

(2) 広報・入試事務

1) 入試広報業務

学生募集に関する広報業務の内、下記の業務については、全教職員で取り組んでいる。

- (a) 入学案内パンフレットの制作
- (b) ホームページの制作運営
- (c) 九州・沖縄地区の校内ガイダンス及び進学説明会への参加

(d) オープンキャンパスの実施（年3回）

(e) 学校見学の受入（年1～2校）

(f) 高校訪問の実施（山口県、九州・沖縄地区 年2～4回）

また、事務室に広報・入試担当者を置き、本学独自のシステム（SRMS）を用いて資料請求者情報を管理し、受験生専用のWebページ、問合せ窓口、フリーダイヤル及びメールアドレスを設置して、受験生からの問合せに対して敏速かつ適切に対応した。

2) 入試業務

本学では多様な選抜を公平かつ正確に実施するため、1990年に入学者選抜関係規程を制定し、入学者選抜に関する必要事項（選抜方法、出願資格、出願書類等、選考基準、判定・手続・入学許可）を規定した。

また、入学試験に関する業務の組織的かつ合理的な運営を図るため、1997年に入学試験運営組織及び業務分掌規程を制定し、学長の指揮監督の下に入試企画委員会、入試実施本部、入試審査採点委員会及び入試判定委員会を置いて適正に処置している。

3) 実施経過

日程

入試種別		出願期間(必着)		試験日	試験地	合格発表	入学手続期間(消印有効)
秋学期		7/4(木)～7/25(木)		7/27(土)	本学	7/31(水)	7/31(水)～8/7(水)
A O	第1回	9/2(月)～9/12(木)		—	—	9/18(水)	9/18(水)～9/25(水)
	第2回	10/3(木)～10/17(木)				10/23(水)	10/23(水)～10/30(水)
	第3回	10/18(金)～11/7(木)				11/13(水)	11/13(水)～11/20(水)
	第4回	11/20(水)～12/12(木)				12/18(水)	12/18(水)～12/25(水)
	第5回	1/9(木)～1/30(木)				2/5(水)	2/5(水)～2/12(水)
	第6回	2/3(月)～2/26(水)				3/5(水)	3/5(水)～3/12(水)
	第7回	2/27(木)～3/13(木)				3/19(水)	3/19(水)～3/26(水)
	第8回	3/14(金)～3/24(月)				3/26(水)	3/26(水)～3/28(金)
給付奨学金		A日程	10/18(金)～11/7(木)	11/10(日)	※地方試験	11/13(水)	11/13(水)～11/20(水)
		B日程	11/20(水)～12/12(木)	12/14(土)		12/18(水)	12/18(水)～12/25(水)
		C日程	1/9(木)～1/30(木)	2/1(土)		2/5(水)	2/5(水)～2/12(水)
		D日程	2/3(月)～2/26(水)	2/28(金)		3/5(水)	3/5(水)～3/12(水)
		E日程	2/27(木)～3/13(木)	3/15(土)		3/19(水)	3/19(水)～3/26(水)
推薦	指定校推薦 公募制推薦	A日程	10/18(金)～11/7(木)	※11/9(土) 11/10(日)	本学	11/13(水)	11/13(水)～11/20(水)
		B日程	11/20(水)～12/12(木)	12/14(土)		12/18(水)	12/18(水)～12/25(水)
		C日程	1/9(木)～1/30(木)	2/1(土)		2/5(水)	2/5(水)～2/12(水)
		D日程	2/3(月)～2/26(水)	2/28(金)		3/5(水)	3/5(水)～3/12(水)
	公募制推薦	E日程	2/27(木)～3/13(木)	3/15(土)		3/19(水)	3/19(水)～3/26(水)
一般		A日程	1/9(木)～1/30(木)	2/1(土)	本学	2/5(水)	2/5(水)～2/12(水)
		B日程	2/3(月)～2/26(水)	2/28(金)		3/5(水)	3/5(水)～3/12(水)
		C日程	2/27(木)～3/13(木)	3/15(土)		3/19(水)	3/19(水)～3/26(水)
社会人 留学生		A日程	10/18(金)～11/7(木)	11/10(日)	本学	11/13(水)	11/13(水)～11/20(水)
		B日程	11/20(水)～12/12(木)	12/14(土)		12/18(水)	12/18(水)～12/25(水)
		C日程	1/9(木)～1/30(木)	2/1(土)		2/5(水)	2/5(水)～2/12(水)
		D日程	2/3(月)～2/26(水)	2/28(金)		3/5(水)	3/5(水)～3/12(水)
		E日程	2/27(木)～3/13(木)	3/15(土)		3/19(水)	3/19(水)～3/26(水)

※地方試験会場（山口・大分・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄）

4) 選抜方法

a. A O入学試験

高等学校もしくは中等教育学校を卒業の者及び 2014 年 3 月高等学校卒業見込みの者で、予備面談を受け具体的な説明を聞き、教育内容を理解した上でエントリーシートを提出させた。本学教員との具体的な面談を通じて本学進学の目的を確認しあい、その後書類審査を課した。

b. 給付奨学金入学試験

経済援助の目的とともに、優秀な人材を募り、本学の建学の理想を未来へ継承・発展させていく人材の育成を図ることを目的として 2005 年度入試より新設した。また、従来実施している学科試験に 2011 年度入試から面接試験を追加した。

<試験科目及び時間>

A 日程	※ 学科試験 10:00 ~ 11:00 (60分)
B 日程	国語・数学・英語から 1 科目選択 国語：国語総合（古文・漢文を除く）
C 日程	数学：数学 I 及び数学 A 英語：英語 I
D 日程	※ 面接試験 11:00～

c. 指定校推薦入学試験

本学が指定した高等学校を 2014 年 3 月卒業見込みの者で、本学が設置する学科を第一志望とし、学力・人物ともに優れ、学校長が推薦する者を対象に、本学所定の推薦書・調査書による書類審査及び面接を課した。

d. 公募制推薦入学試験

2013 年 3 月高等学校卒業の者及び 2014 年 3 月高等学校卒業見込みの者で、本学が設置する学科を第一志望とし、学力・人物ともに優れ、学校長が推薦する者を対象に、本学所定の推薦書・調査書による書類審査及び面接を課した。

e. 付属推薦入学試験

東海大学が設置する付属高等学校の最終学年に在学し、本学が設置する学科を第一志望とし、学校長の推薦を受けた者を対象に、書類審査を課した。

f. 一般入学試験

大学入試を志望できる者で本学に入学を志望した者に、以下の内容で試験を実施した。

なお、面接試験は、2011 年度入試から追加した。

<試験科目及び時間>

A 日程	※ 学科試験 10:00 ~ 11:00 (60分)
B 日程	国語・数学・英語から 1 科目選択 国語：国語総合（古文・漢文を除く） 数学：数学 I 及び数学 A 英語：英語 I
C 日程	※ 面接試験 11:00～

g. 社会人入学試験

東海大学の「建学の精神」、「教育方針」を理解し、本学入学を第一志望とする者で、出願資格を満たした者に対し、調査書等による書類審査及び面接を課した。

h. 留学生入学試験

東海大学の「建学の精神」、「教育方針」を理解し、本学入学を第一志望とする者で、外国において、通常の課程による12年の学校を修了した者、またはこれと同等以上の学力があると本学が認めた者に対し、書類審査、日本語による作文（60分間600字以内）及び日本語による面接を課した。

5) 入試結果

()内は男子学生

学 科	志願者	受験者	合格者	入学手続き者
情報処理学科	20 (14)	19 (13)	19 (13)	19 (13)
国際文化学科	72 (8)	72 (8)	72 (8)	68 (7)
合 計	92 (22)	91 (21)	91 (21)	87 (20)

(3) 入学手続き者への対応

入学手続き者が入学するまでの間と入学後のいろいろな問題や不安を解決する為、「入学生の皆さんへ」を発行した。またこのほかに、学科での勉学の動機付けと学修意欲の高揚をはかることを目的として事前学習課題の提出を課した。

1) 「入学生の皆さんへ」の発行

入学手続き者が入学するまでの間に、2回（12月号、2月号）発行し、各家庭に郵送している。

a. 2013年度12月号

12月号においては、1年間のキャンパスライフについて下記の通り紹介し、感想や質問のアンケートを同封した。

- 学長からのメッセージ
- 年間スケジュール
- 主なイベント（入学式・新入生オリエンテーションキャンプ・新入生ハワイ集中講義・学園三短期大学スポーツ大会・建学祭・卒業式）
- 在学生メッセージ（編入学・就職・資格取得・留学等）
- 学生支援（各種奨学金）
- クラブ紹介

b. 2013年度2月号

2月号は前号（12月号）の感想や質問に対しての回答を踏まえ、Q&A形式で下記の通り紹介した。

- 学科からのメッセージ
- 入学式のご案内
- 課外活動について
- 入学後のQ&A、学修関連Q&A、資格関連Q&A、進路関連Q&A
- 通学について
- 事務室からのお知らせ

2) その他

上記のほか、入学手続き者に対しては以下の支援活動を実施している。

- 入学式案内（オリエンテーションウィークの日程を含む）
- 事前アンケートおよび調査案内
- 学生総合補償保険の案内

(4) 入試業務の的確性と現状評価について

短大の入試は、2000 年度を境にして「選抜する入試」から「入学させる入試」へ入試傾向が変わり、本学も学科試験で能力を測る入試から入学目的を問う推薦試験や A0 入試に軸を移して入学者確保を図るようになってきている。さらに昨年度より、目的意識や勉学意欲を評価するため、一般入試、給付奨学金入試において面接試験を追加した。次年度以降はこうした自由度を徐々に廃して、引き続き目的意識の高い学生を入学させることを目標に入試制度を整える必要がある。

2. ガイダンス

(1) 入学者に対する学修・学生生活のためのガイダンス

入学後の学修や学生生活のためのガイダンスは下記の通り、3 日間をかけて実施した。全体ガイダンスでは学長挨拶、ガイダンス流れと趣旨説明、セメスターアワード表彰を行った。「教学ガイダンス・事務連絡」では、学生生活に関する不安を取り除くため、教務・学生・健康管理・メディア情報センターの担当者がガイダンスを行った。また、「学科別ガイダンス」では、学科の特色説明、教員紹介を行った後、個別面談を通して各個人の状況を把握した。翌日、指導教員別に分かれて、前日のガイダンスを通じて不明な部分の相談に応じると共に、春学期授業の個別履修指導を行った。「コンピュータ利用ガイダンス」では、円滑な学生生活が送れるようにコンピュータ実習室での ID 管理やメール使用方法、Web 掲示板の閲覧方法などの指導を行った。なお、奨学金に関する説明会と安全運転講習会については、ガイダンス翌週の放課後に実施した。

コミュニケーションの不安、心の問題、不本意入学などを抱える学生が多くなってきている現状を鑑み、指導教員と少人数あるいは個別に接する時間を多く設定することで、早期にこれらの問題を抱える学生を見つけ出すと共に、フォローできるよう配慮している。

	午前	午後
4 月 4 日 (木)	○全体ガイダンス 9:00～10:10 2502 教室 ○教学ガイダンス・事務連絡 10:30～11:50 2502 教室	○学科別ガイダンス 13:00～14:50 情報：2501 教室 国際：ゼミ室 2・3 ○留学生特別指導 15:15～16:00 1307 教室
4 月 5 日 (金)	○指導教員別履修指導 9:00～10:20 各室 ○基礎学力試験 10:30～11:50 2502 教室	○コンピュータ利用ガイダンス 13:00～14:50 コンピュータ実習室 ○学友会・クラブ紹介 15:00～17:00
4 月 6 日 (土)	○Web 履修登録説明会 9:00～9:50 コンピュータ実習室 ○健康診断 10:00～12:00 3 号館 1 階	

(2) 在学生に対する定期的なガイダンス

1) 春学期ガイダンス

4 月 4 日 (木)～6 日 (土) まで実施。全学生に対し、全体ガイダンス・教学ガイダンス・事務連絡・学科別ガイダンス・指導教員別履修指導・進路ガイダンス・卒業延期者ガイダンス・健康診断を実施。

2) 秋学期ガイダンス

9 月 24 日 (火) に実施。春学期同様全学生に対し、全体ガイダンス、学科別ガイダンス・指導教員別履修指導・事務連絡・進路ガイダンス (2 年生のみ) を実施し、避難訓練を行った。

3. 学生生活支援体制

学生生活を有意義で充実させるために東海大学福岡短期大学では、学生生活に対応した組織が整備されている。事務室及び学生支援室が学生生活全般に関する相談を始めとして、学生に対する各種サービスの窓口となっている他、1年次からのゼミ制と指導教員制度を導入していることにより、学修上の問題や学生生活が円滑に営まれるよう生活全般にわたってきめ細かな指導と助言を行っている。また、健康推進室には保健師を、学生相談室には専門のカウンセラーを配置し、心身共にケアが行えるよう配慮している。

課外活動においては、学生の自主的な組織として、自治会活動を行う『学友会』、またスポーツや文化芸術を通じて心身の錬磨に努め活動する『有志会』があり、自主的な活動を行っている。

(1) 学生生活

1) 各学生団体主催行事

a. 新入生歓迎食事会

新入生に対し、食事会およびレクリエーションを行った。

- (a) 日 時 4月12日(土)
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 3号館1階食堂
- (c) 参加者 約100名(新入生・在学生・教職員)
- (d) 内 容 食事会、音楽クラブによる演奏、エイサー演舞、レクリエーション

b. TOKAIN

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 5月16日(木)
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 福岡コモンホールアリーナ
- (c) 参加者 30名(学生26名・教職員4名)
- (d) 内 容 レクリエーションゲーム

c. 夏季スポーツ大会(ソフトバレー大会～神山カップ～)

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 6月20日(木)
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 福岡コモンホールアリーナ
- (c) 参加者 35名(学生26名・教職員9名)
- (d) 内 容 ソフトバレー チーム対抗戦(トーナメント方式)

d. BBQ会

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 7月24日(水)
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 3号館1階食堂・3号館前芝生広場
- (c) 参加者 約70名
- (d) 内 容 バーベキュー会(食事会)

e. ボウリング大会

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 11月21日(木)
- (b) 場 所 折尾スターレーン(北九州市八幡東区折尾5-1-5)
- (c) 参加者 約60名
- (d) 内 容 ボウリング2ゲーム(チーム対抗、個人表彰)

f. 第24回建学祭

(a) 期間 11月2日(土)～11月3日(日)
(11月1日:準備、11月4日:後片付け)

(b) テーマ 『進化～新しい自分へ～』

(c) 実行委員会

(1) 実行委員長	企画局	荒渡 尚人	(B2IC1001)
(2) 副実行委員長	渉外局	本田 紗己	(B2IC1038)
	会計局	近藤 望美	(B2IC1052)
	編集・看板局	黒木 歩希	(B3IC1019)
(3) 委員	渉外局	田代 沙綾	(B3IC1028)
	企画局	龍 拓匠	(B2IM1020)
	企画局	阿南 夕奈	(B3IC1003)
	企画局	前崎 有砂	(B3IC1036)
	編集・看板局	佐々木 真希子	(B3IC1022)

(d) 内容: 日程・ステージ企画

11月2日 (土)	12:00～ 開祭式 12:30～ 模擬店宣伝タイム 13:00～ プロジェクト対抗 ジェスチャーゲーム 14:00～ ちびっこ〇×ゲーム 15:00～ 仮装大会 16:00～ カラオケ大会 17:30～ 大抽選会 18:15～ Live (音楽クラブ) 19:00～ 一時閉祭
11月3日 (日)	10:30～ 建学記念式典 11:00～ 吹奏楽ミニコンサート (第五高校) 12:30～ 猿回し (猿心) 13:00～ ちびっこ〇×クイズ 13:30～ エイサー (沖縄県人会) 14:00～ Let's ダンス (韓国文化研究会) 14:15～ 猿回し (猿心) 15:00～ Special Live 1 (JOE) 15:40～ Special Live 2 (チキンナゲッツ) 17:00～ SHOW CASE 1 (B.D.S DANCE STUDIO) 18:00～ SHOW CASE 2 (ストリートダンス) 18:45～ 閉祭式 19:00～ 花火

(e) 研究発表・展示・模擬店

展 示: 【2号館2階ブラウジングルーム】

・東海大学附属第五高等学校

【2号館3階コンピューター実習室】

・東海大学附属自由ヶ丘幼稚園 (園児作品展示)

【3号館2階 学生ラウンジ】

・有志会

ESS: 「歌詞の英訳」

韓国文化研究会: 「K-POP について」

- ・韓国短期留学 A・B：「夏、冬短期留学報告！」
- ・交換留学（韓国）：「交換留学報告！」
- ・北濱・岡本：「プロジェクト研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについて」
- ・福岡東海キャンパス：「夢灯籠まつり」

模擬店：クラブ・有志・外部団体より 12 団体が出店

g. 2 年生お別れ会

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 1 月 28 日（木）
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 3 号館 2 階学生ラウンジ
- (c) 参加者 34 名
- (d) 内 容 ビンゴ大会他

h. リーダース研修会

- (a) 日 時 2014 年 2 月 25 日（火）～27 日（木）
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 学内
- (c) 参加者 27 名（学生 17 名、教職員 9 名、外部講師 1 名）
- (d) スケジュール

< 研修 1 日目 2 月 25 日（火） >

時間	企画内容	担当者	場所
8:50	集合・諸連絡	福田	1307 教室
9:00	開会式（建学の歌、開会挨拶、校歌斉唱）	司会、北濱	1307 教室
9:30	研修会趣旨、スケジュールについて	北濱	
10:00	研修 1 学長講話：学生リーダーに期待すること	神山学長	
11:00	自己紹介（1 分間スピーチ）	北濱	
11:45	昼食	福田・北濱・柏木	第五高校食堂
13:00	研修 2-1 講演： リーダーになることとナカマカ テーマ「社会におけるリーダー」	外部講師：辻 敏晴 （元北九州青年会議所 監事）	1307 教室
15:00	研修 2-2 ワークショップ		
17:00	諸連絡・一時解散		1307 教室

< 研修 2 日目 2 月 26 日（水） > ※短大に宿泊

時間	企画内容	担当者	場所
8:50	集合・諸連絡	福田	1307 教室
9:00	研修 3 講演：マネジメント力 テーマ「リーダーの資質とリーダーシップ」	佐竹	
10:30	研修 4-1 学内年間行事での役割理解 （学友会行事、建学祭、キャンパス連携など）	北濱	
12:00	昼食	福田・北濱・柏木	第五高校食堂
13:00	研修 4-2 ワークショップ	柏木	1307 教室
14:00	研修 5-1 年間活動目標の作成 新入生歓迎に向けて	北濱・柏木	1307 教室 1306 教室
18:00	夕食	福田・北濱・柏木	第五高校食堂
19:00	研修 5-2 ワークショップ	北濱・柏木	3 号館 2 階
20:30	入浴	福田	コモンホール
21:30	自由時間・就寝	柏木・北濱	3 号館 1 階、2 階

< 研修 3 日目 2 月 27 日（木） >

時間	企画内容	担当者	場所
7:00	起床・宿泊場所掃除他	柏木・北濱	3 号館 1 階、2 階
7:15	福岡東海キャンパス内清掃	北濱	福岡東海キャンパス内
7:45	朝食	北濱・柏木	第五高校食堂

9:00	集合・諸連絡	福田	1307 教室
9:10	研修6 学生交流活性化に向けて	北濱	
12:00	昼食	福田・北濱・柏木	第五高校食堂
13:00	研修7 年間活動目標の発表	北濱・柏木	1307 教室
15:00	閉会式（学長挨拶、建学の歌、閉会挨拶、校歌斉唱）	司会、神山学長、北濱	
15:30	解散	福田	

2) 法人主催の学生行事

a. 第24回東海大学短期大学（部）スポーツ大会

(a) 主催 学校法人東海大学

(b) 目的 「建学の精神」に則り、各短大の代表される学生が一致団結して、スポーツを通じて学生相互の交流・親睦と技術向上を図り、学園の発展に自らが歴史を作る一員であることの意義を学ぶことを目的とする。

(c) 実施日時 9月7日（金）

(d) 成績 総合 1位

対抗別	種目	男女別	短期大学部		福岡短大		医療短大	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点
クラブ対抗の部	バスケットボール	混合	2	3	3	1	1	6
	バレーボール	女子	3	1	1	6	2	3
	硬式テニス	女子	2	3	3	1	1	6
	フットサル	男子	1	6	2	3	3	1
クラブ対抗得点 1位：6点 2位：3点 3位：1点			2	13	3	11	1	16
校舎対抗の部	メディシンボール	混合	2	8	1	12	3	5
	大縄跳び	混合	3	5	2	8	1	12
	綱引き	混合	3	5	1	12	2	8
校舎対抗得点 1位：12点 2位：8点 3位：5点			3	18	1	32	2	25
総合得点			3	31	1	43	2	41

(e) 実施場所 東海大学湘南校舎

- (f) 引率者
1. 神山 高行（大会実行委員長・学長）
 2. 北濱 幹士（大会競技委員）
 3. 岡本 武志（大会競技委員）
 4. 岩重 将成（総務責任者・事務室長）
 5. 森田 博文（総務責任者補佐・事務室長補佐）
 6. 柏木 翔（学生委員会）

(g) 競技名及び学生参加者氏名（○囲み数字は各種目の責任者）

1) バスケットボール（混合）・校舎対抗（10名）

①	龍 拓匠	B2IM1020	6	喜友名 泉莉	B2IC1014
2	荒渡 尚人	B2IC1001	7	伊藤 有見	B2IC1049
3	木村 俊男	B3IM1016	8	阿南 夕奈	B3IC1003
4	本田 紗己	B2IC1024	9	荒谷 仁美	B3IC1004
5	岩崎 美香	B2IC1003	10	荒木 夏名美	B3IC1005

2) バレーボール（女子）・校舎対抗（8名）

①	古野 里奈	B2IC1046	5	竹田 美沙都	B3IC1027
2	古賀 明日香	B2IC1016	6	松尾 智耶子	B3IC1038
3	田中 美希	B2IC1025	7	吉田 知子	B3IC1041

4	重 明佳里	B3IC1023	8	岡部 光	B3IC1051
---	-------	----------	---	------	----------

3) 硬式テニス (女子・男子)・校舎対抗 (5名)

①	松尾 駿輝	B3IM1020	4	中西 葵	B3IM1018
2	阿部 優樹	B3IC1049	5	松尾 晴香	B3IM1021
3	中嶋 智織	B3IC1054			

4) フットサル (男子)・校舎対抗 (10名)

①	梅山 恵	B2IC1007	6	稲垣 卓磨	B3IC1010
2	梅田 直弥	B2IC1006	7	大塚 健斗	B3IC1013
3	大内田 貴一	B2IC1009	8	酒見 匡	B3IC1021
4	大田 寛人	B2IC1010	9	服部 将己	B3IC1033
5	有馬 大貴	B3IC1006	10	松尾 将八	B3IC1047

(h) 参加日程

・ 8月29日 (木)

- 8:00 福岡空港国内線第2ターミナル1階 全日空カウンター前集合
- 9:00~10:40 ANA244 便にて東京羽田空港へ移動
- 10:40~11:00 公共交通機関乗り場まで移動 (先発9名、後発30名に分かれる)
- 11:00~13:30 公共交通機関にて湘南キャンパスへ移動
- 13:30~13:35 昼食会場へ移動 (8号館1階食堂)
- 13:35~14:05 昼食
- 14:05~14:20 宿泊所の6号館に移動、荷物を置く
- 14:20~ 先発は直接医療短大へ移動、後発はキャンパス見学
- 14:30~16:30 競技準備
先発のみ医療短大で準備打合せ後、準備開始
- 16:30~17:00 クラブ毎に会場チェック及びミーティング
- 17:00~18:00 夕食 (コムスクエア2階カフェスクエア) : 後発
夕食後、6号館宿泊所へ (休憩・ミーティング)
- 17:30~18:30 ※先発は松前会館にて各校舎学生との懇親会
- 18:00~22:00 休憩・ミーティングおよびシャワー (総合体育館)
- 22:00 消灯

・ 8月30日 (金)

- 6:30 起床及び支度 (着替えは済ませる)
- 7:15 6号館前集合、食堂まで移動
- 7:30~ 8:00 朝食 (8号館1階食堂)
- 8:00~ 8:10 移動
- 8:10~ 9:30 体育館集合、ミーティング、競技準備
- 9:30~ 9:50 開会式
- 10:00~13:45 クラブ対抗競技
- 14:00~15:30 校舎対抗競技
- 15:30~16:00 競技終了後、会場片付け
- 16:00~16:30 閉会式・表彰式
- 16:30~17:30 休憩及びシャワー (総合体育館)
- 17:30~18:30 福岡短大懇親会 (コムスクエア2階カフェスクエア)
- 18:30~22:00 懇親会后、宿泊所へ (休憩・ミーティング)、シャワー (総合体育館)
- 22:00 消灯

- ・ 8月31日（土）
- 6：30～ 7：00 起床及び支度、全体清掃、宿泊所現状復帰
- 7：00～ 7：15 食堂まで移動（荷物は持参）
- 7：30～ 8：00 朝食（8号館1階食堂）
- 8：00～ 8：15 朝食後、8号館前集合・説明
- 8：15～15：30 8号館前にて一時解散、自由行動
- 15：30 羽田空港第二ターミナル2階 全日空カウンター（時計台3前）集合
- 16：30～18：15 ANA263便にて福岡へ
- 18：35 福岡空港 解散

(i) 宿泊先

東海大学湘南キャンパス6号館（学生及び岡本・柏木・森田）

東海大学松前会館（学長・北濱・岩重）

[住所]〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1 [電話]0463-58-1211（代表）

(2) 学友会

大学生活では、正課の授業の他に課外活動を行う組織を「学友会」と称し、全学生が参加して行う自治活動と有志が集まって行うサークル活動とがあり、学生自身が積極的に参加し自主的に活動運営されている。先に記載した学生団体主催行事はこの学友会を中心として運営された。

1) 自治組織

a. 学友会の機構

- (a) 学生総会
- (b) 代議委員会（クラス・有志代表）
- (c) 学友会
 - a) 執行委員会
 - b) 監査委員会
 - c) 有志会（体育系クラブ・文化系クラブ）
- (d) 臨時委員会
 - a) 建学祭実行委員会
 - b) 卒業記念行事委員会
 - c) 選挙管理委員会

b. 学友会役員

学友会役員選挙が下記の日程で実施された。

- (a) 投票日 11月21日（木）～25日（月）
- (b) 選挙管理員長 喜友名 泉莉
- (c) 選挙結果 11月27日（水）公示
 在籍者数 143名 投票者数 79名 有効投票数 76票
 投票率 58.1%

I. 執行委員長（定数1名）

当選者	氏名	学生証番号	有効票	獲得票数	無効票
○	黒木 歩希	B3IC1019	76	58	3
	酒見 匡	B3IC1021	76	18	3

I I. 執行委員（定数2名）

結果	氏名	学生証番号	有効票	信任	不信任	無効票
----	----	-------	-----	----	-----	-----

信任	服部 将己	B3IC1033	76	76	0	3
信任	北川 遥夏	B3IC1017	76	76	0	3

III. 監査委員 (定数2名)

結果	氏名	学生証番号	有効票	信任	不信任	無効票
信任	松尾 智耶子	B3IC1038	76	76	0	3
信任	前崎 有砂	B3IC1036	76	76	0	3

c. 学生団体 (有志会)

<体育系クラブ>

	団体名 (区分)	担当教員	学生責任者 (学生証番号)	1年 男	1年 女	2年 男	2年 女	合計
1	テニス (サークル)	岩重 将成	松尾 駿輝 (B3IM1020)	2	3	0	0	5
2	サッカー (クラブ)	岡本 武志	梅山 恵 (B2IC1007)	6	3	5	4	18
3	バスケットボール (クラブ)	北濱 幹士	龍 拓匠 (B2IM1020)	1	1	2	4	8
4	バドミントン (クラブ)	宮川 幹平	市津 愛理 (B2IC1043)	0	1	3	1	5
5	野球 (クラブ)	柏木 翔	荒渡 尚人 (B2IC1001)	4	1	7	5	17
6	バレーボール (クラブ)	森田 博文	古野 里奈 (B2IC1046)	0	5	0	2	7
7	ストリートダンス (サークル)	香月 康則	岡部 光 (B3IC1051)	0	9	1	0	10
体育系合計				13	23	18	16	70

<文化系クラブ>

	団体名 (区分)	担当教員	学生責任者 (学生証番号)	1年 男	1年 女	2年 男	2年 女	合計
1	音楽 (クラブ)	神山 高行	高田 希志 (B2IC1022)	2	3	0	6	11
2	コンピュータ・ネットワーク (クラブ)	八尋 剛規	古野 優衣 (B2IM1003)	1	2	2	3	8
3	沖縄県人会 (クラブ)	伊津 信之介	喜友名 泉莉 (B2IC1014)	0	3	0	7	10
4	中国文化研究会 (クラブ)	チョウ・アンナ	LIU YANG (B2IM1501)	0	9	3	5	17
5	韓国文化研究会 (クラブ)	林 鍾大	川原 美優 (B2IC1013)	0	17	0	9	26
6	ESS (サークル)	松本 知子	上野 可奈 (B3IC1012)	0	6	0	0	6
文科系合計				3	40	5	30	78

(3) 奨学・援護

1) 奨学金

本学では、経済的な援助を必要とする学生のために、本学独自の奨学金（給付）・学園独自の奨学金（給付）日本育英会奨学金及び地方公共団体等によるものを取り扱っている

【奨学金一覧】

名称	内容	採用条件
東海大学福岡短期大学 遠隔地奨学金（給付）	12万円（年額） 各学年で10名以内	修学意欲旺盛な学生で沖縄県、離島出身者に奨学金の給付を行う。
東海大学福岡短期大学 学習奨励奨学金（給付）	21万円（入学時） 20名以内	給付奨学金入学試験に合格し、入学した者のうち成績、人物共に優れ、健康な者に奨学金の給付を行う。
東海大学福岡短期大学 資格取得奨励奨学金 （給付） -2008年度より-	第1種 5万円 第2種 3万円 第3種 1万円 若干名	在学中に資格取得及び検定試験に合格し、顕著な実績を収めた者に奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 建学記念論文（給付）	最優秀賞：20万円 優秀賞：10万円 入選：5万円 若干名	建学の精神を未来へ継承発展させていくための人材育成をはかるもので、優秀な論文を書いた者に奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 自己研鑽奨学金（給付）	個人：30万円 団体：10万円～50万円 若干名	文化活動・スポーツ活動・社会活動・ボランティア活動その他の自己研鑽活動をしている個人または2名以上のグループに奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 留学生奨学金（給付）	授業料の70% 若干名	人物、学業成績共に優秀な外国籍の私費留学生に奨学金を給付。
松前重義記念基金 短期大学（部）派遣留學生奨学金（給付）	短期留学：2万円 長期留学：6万円	教育による人材育成と相互理解を促進するために本学園と国際交流協定を締結している教育機関へ派遣を行う者。
日本学生支援機構 奨学金 （貸与）	第1種（無利子） 自宅：53,000円、自宅外：60,000円 第2種（有利子） 3万円、5万円、8万円、10万円を選択できる	第1種：評定平均値3.5以上 第2種：評定平均値平均水準以上 学業・人物共に優れかつ健康であって、経済的理由により就学が困難であると認められる者を推薦し、貸与される。
地方公共団体奨学金	給付・貸与金額等は団体によって異なる	地方公共団体等で設けている制度に準じて採用される。

【採用状況一覧】

名称	内容	採用者合計人数
東海大学福岡短期大学 遠隔地奨学金（給付）	[2年生] 情報処理学科 0名 国際文化学科 1名	4名
	[1年生] 情報処理学科 1名 国際文化学科 2名	
東海大学福岡短期大学 学習奨励奨学金（給付）	[1年生] 情報処理学科 3名 国際文化学科 8名	11名

東海大学福岡短期大学 資格取得奨励奨学金（給付）	[2年生のみ] 【第1種】 情報処理学科 2名 国際文化学科 4名 【第2種】 情報処理学科 0名 国際文化学科 7名 【第3種】 情報処理学科 0名 国際文化学科 1名	14名
松前重義記念基金 留学生奨学金（給付）	[2年生] 国際文化学科 2名 情報処理学科 2名 [1年生] 国際文化学科 1名 情報処理学科 0名	5名 (秋学期入学生1名)
私費外国人留学生学習奨励費	[2年生] 国際文化学科 1名	1名
日本学生支援機構奨学金（貸与）	定期採用 [2年生] [1年生] 第1種 1名 6名 第2種 0名 7名 予約採用者 : 第1種5名 第2種24名 次回以降採用者 : 該当者なし 臨時採用者 : 該当者なし	12名 内示数 : 第1種7名 第2種10名 (定期採用申請者のみ)

2) アルバイト

アルバイトの斡旋については、1)授業に支障をきたさない、2)危険性を伴わない、3)学生にふさわしい職種であることを条件として、企業から事務室に情報を提供していただき、学生ラウンジの掲示板で公開している。また、特に経済的に困難でアルバイトをしなければ学業を続けられないという学生には個別に相談にのっている。

3) 学割発行状況

発行状況を見るとやはり長期休暇前の発行が多く、特に帰省、見学旅行、就職等に利用されている。発行状況は下記の通り。

	帰省	正課教育	課外教育	就職	見学旅行	傷病治療	保護者随伴旅行	廃紙	小計
4月	2				1				3
5月									
6月				1			1		2
7月			1	4			3		8
8月									
9月									
10月	2				1				3
11月					1				1
12月									
1月									
2月									
3月									
合計	4	0	1	5	3	0	4	0	17

(4) 福利・厚生

1) 学生教育研究災害障害保険（財団法人 日本国際教育支援協会）

保険金が支払われる事故の範囲は、被保険者が在籍する本学の教育研究活動中に被った急激かつ偶然な外来の傷害。なお教育研究活動とは以下に定義される。

- (a) 正課を受けている間
- (b) 学校行事に参加している間
- (c) (a), (b)以外で学校施設内にいる間
- (d) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間（病気はこの対象とならない。）

2) 学生総合保障制度

この制度は、任意加入の保険制度で、入学試験の申請書類に同封し案内している。学生自身が災害を被った時、あるいは不注意により他人の身体や財物を害した場合などの加害事故を起こした時に、学生を救済する制度である。正課中はもちろんスポーツ中・課外活動・通学途中・アルバイト中など1日24時間補償するものである。

3) 学内環境

a. 食堂

学内には3号館1階に食堂があり、安価で栄養のバランスが取れているため利用者も多い。メニューは日替わり定食、日替わり丼、カレーライス、うどん、そばなどが中心で、平日の11時50分から12時40分まで営業している。食事スペースはもちろん、談話スペースとしても利用されている。

b. 体育館

本学体育館は福岡コモンホールと呼ばれ、1998年に建築された。2階は850平米のアリーナ、3階にはフィットネスルームがあり、16種類のマルチトレーニングマシンなどを設置しており、授業の合間や放課後の体力づくりに寄与している。

4) 居住環境

本学は、寮を完備していないため、在籍者の3分の1（約50名程度）が大学周辺等のアパートを借りて学生生活をしている。最近では、入学者の減少によりアパートに住む学生数も減ってきているが、アパートの設備については、エアコンはもちろん家具付きに入居が集中するようになった。

紹介方法は、宗像に拠点を持つ不動産屋や家主さんから提供されたアパート情報を冊子にして、入学手続者の中で県外出身者に対してその冊子を郵送し、直接契約していただいている。また、本学に来校し状況を聞いた上で不動産屋等と交渉する場合もある。

(5) 交通問題

学生の車に対する意識・感覚の変化とともに、運転免許の保有者も増大した。現代社会では、車なしの生活は考えられない社会状況になっている。また、飯塚・直方・鞍手方面から通学している学生は、自家用車で通学の方が通学時間の短縮にもなる。

こうした社会的背景を受けて学生の通学形態も大きく変化し、車両通学を希望する学生が急増している。こうした状況を鑑み、本学では1997年9月から、車両通学許可制度の実施に踏み切った。その許可条件には本学が学期毎に開催する交通安全講習会の受講を義務づけるなどの規程が盛り込まれている。今後は、この許可制度がしっかりと機能するよう学内における啓蒙活動、指導が大切といえる。

通学バスの運行について、本学の通学路には長い上り坂があり、例年行なっている学生アンケートの中でシャトルバス運行の要望があっていた為、後援会からの予算で2003年度から最寄りのJR赤間駅と本学までシャトルバスを3往路、2復路にて運行している。

2013年度 車両通学許可件数

学期	四輪	二輪
春学期	5台	2台
秋学期	7台	2台

※学内駐車場利用料金：四輪 500 円／半期、二輪 500 円／2 年間

(6) 証明書発行状況

各種証明書の発行状況は下記の通り。

証明書名	発行枚数
在学証明書	48
成績証明書	184
卒業見込証明書	87
卒業証明書	144
学生証再発行	3
その他	16
計	482

(7) 健康推進室

1) 概要

健康推進室は、保健管理に関する専門的な業務を行い、学生及び教職員の健康の保持・増進を図ることを目的とした施設として設置されている。

構成員は、室長（事務室長・兼務）、健康推進室は保健管理医（内科医・非常勤）1名、保健技術職員（専任）1名、学生相談室は臨床心理士（非常勤）1名である。

室長は両室の管理、調整に当たっている。保健管理医は月に1回来室し、健康診断、健康相談、その他保健管理業務を行っている。また、臨床心理士は週1回来室し相談業務を行っている。

2) 活動状況

年間の主要業務としては、学生・教職員の定期健康診断や健康診断再検査及び事後措置、入試等の救護を行っている。日常業務としては、応急処置、健康相談、保健指導、健康診断証明書の発行等を行っている。その他、保健管理医による健康相談を月に1回実施している。

その他、広報・啓蒙活動として保健関連書籍の貸し出し・保健ニュース等の掲示を行っている。

2013年	入学式救護・健康診断ガイダンス（学生）、定期健康診断（学生・教職員）
4月	健康診断再検査および事後措置
5月	健康診断再検査および事後措置（結果説明・結果配布）、
6月	健康診断事後措置（結果説明・結果配布）、呼出面談
7月	秋学期入試救護、オープンキャンパス救護
8月	学内行事等での救護、
9月	後援会救護、秋学期ガイダンス、オープンキャンパス救護
10月	要観察者定期検査、オープンキャンパス救護、模擬店食品衛生指導（保健福祉環境事務所との連絡調整）
11月	建学祭救護、入学試験救護、インフルエンザ予防接種学内実施（教職員対象）
12月	入学試験救護、
2014年1月	入学試験救護
2月	定期業務
3月	卒業式救護、入学試験救護

定期健康診断

・学 生

実施項目

- | | |
|-------------------|-----------------|
| a. 身体計測（身長・体重・視力） | b. 胸部レントゲン撮影 |
| c. 血圧測定 | d. 尿検査（蛋白・潜血・糖） |
| e. 問 診 | f. 心電図（問診で指示者） |
| g. 内科診察 | |

受診状況（5月末まで：外部検診者含む）

	1 年			2 年			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
対象者（人）	22	53	75	26	54	80	48	107	155
受診者（人）	22	52	73	24	50	74	46	102	148
受診率	100%	98.1%	97.3%	92.3%	92.5%	92.5%	95.8%	95.3%	95.4%

・教職員

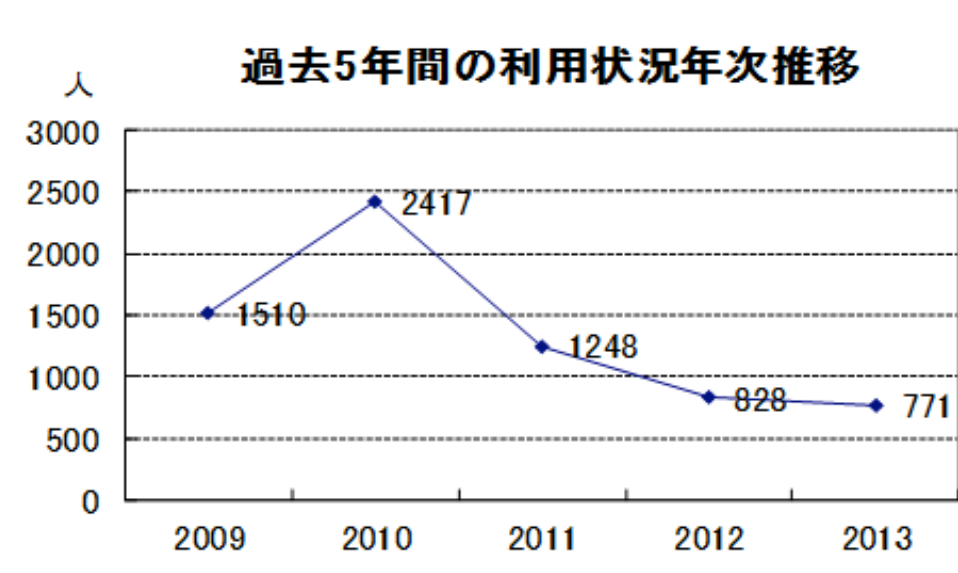
実施項目（35才未満）

- | | | |
|-------------------------|--------------|---------|
| a. 身体測定（身長・体重・視力・腹囲） | b. 胸部レントゲン撮影 | c. 血圧測定 |
| d. 尿検査（蛋白・潜血・糖） | e. 問診 | f. 血液検査 |
| （35才以上は上記 a～g および下記の項目） | | |
| h. 心電図 | i. 胃検診 | j. 大腸検診 |

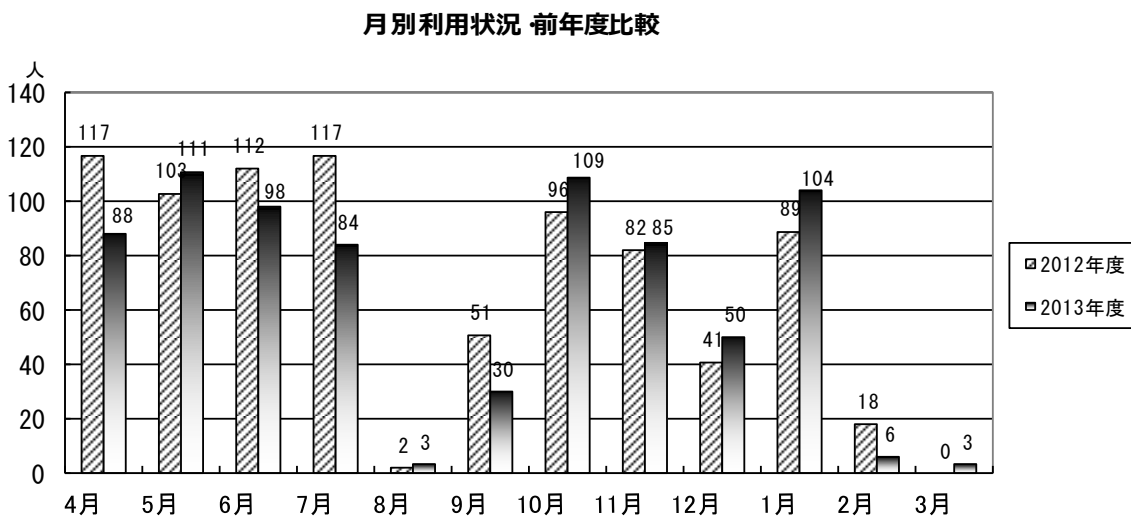
受診状況

*非常勤講師4名含む

	教 員			職 員			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
対象者（人）	16	6	22	4	8	12	20	14	34
受診者（人）	16	6	22	4	8	12	20	14	34
受診率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



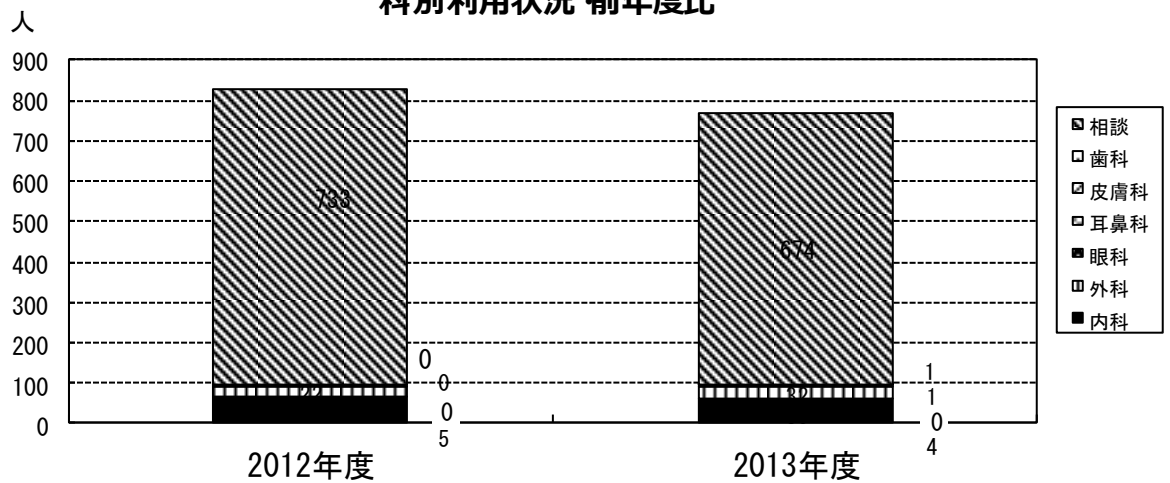
3) 利用状況



(2013. 4. 1～2014. 3. 31)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	学 生	5	2	4	1	0	0	17	11	3	11	0	0	54
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	5
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	学 生	0	5	2	14	2	0	0	6	0	3	0	0	32
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	学 生	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	4
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	学 生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	学 生	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	学 生	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
*相談	学 生	79	92	86	62	1	23	86	57	37	73	4	3	603
	教職員	4	9	1	5	0	4	5	8	3	4	0	0	43
	その他	0	3	4	0	0	2	1	2	4	10	2	0	28
合計	学 生	84	99	93	79	3	24	103	75	40	88	4	3	695
	教職員	4	9	1	5	0	4	5	8	6	6	0	0	48
	その他	0	3	4	0	0	2	1	2	4	10	2	0	28

科別利用状況 前年度比



科別措置件数

科	病院搬送	病院紹介	応急処置	保健指導	その他	合計
外科	0	0	26	1	5	32
内科	0	1	23	15	20	59
眼科	0	0	4	0	0	4
耳鼻科	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	0	0	1	1
歯科	0	0	0	1	0	1
相談業務	0	2	6	12	654	674
合計	0	3	59	29	680	771

4) 今後の課題

健康推進室で対応しているケースの多くが、精神的に不安や問題を抱えている学生の対応である。入学前から、すでに難しさを抱えている学生もいて、コミュニケーション能力や社会性が乏しい学生は、友人関係が結び難くどうしても一人での行動を余儀なくされる。それにより、学校生活においては孤立しがちで居場所が見当たらず、空き時間や休憩時間に当室を訪れるケースが見られる。そのような場合、まずは信頼関係を築くため、導入の段階で学生が尋ねてきた際の態度や声かけには注意を払うようにしている。健康推進室を尋ねてくる学生は、何かしら不安や問題を抱えているのではないかと仮定し、尋ねてきた事でサインを放っているとの前提で対応するように心がけている。導入時の担当者の印象や学生への関わり方ひとつで、その学生が心を開くか、心を閉ざしたままになるか、大きく左右すると考えている。学生を快く受け入れ、尋ねてきた本当の理由や根っ子に抱えている問題が何なのか見つけ出すことが大切であると実感している。

今後の課題として、当室での学生との関わりは1対1である事が多く、その中で知り得た学生情報を必要時や緊急時にどこまで開示し、どこまでを担当者で留まらせておくべきかなど、判断に迷うことがあり、それをいかに解消するべきかという点である。担当者一人で抱えがちになり、学生問題で自分自身が悩み苦しむ事に繋がるため、日ごろから周囲との連携を深め、いつでも相談できるような関係づくりを担当者として強化していくことが更に今後求められる。

(8) 学生相談室

1) 概要

学生相談室の役割は、学生の悩みの相談や、将来設計の手伝いをして学生生活を豊かなものにするところにある。必要に応じて、心理面接、各種心理検査や適性検査も行なっている。相談業務を担当するカウンセラーは1名で、非常勤として学外から週1回来校している。相談時間は、水曜日の10時30分より17時00分までとなっている。

学生相談室は健康推進室と同じセクションにまとめられていて、連携して学生の心身の健康維持に対処する体制がとられている。相談業務を担当するカウンセラーが非常勤の限られた勤務形態をとっているため、健康推進室で学生の動向を注意し、継続的なケアを行なっている。また一方で、身体的な訴えの裏に精神的な問題が潜んでいるケースの場合には、カウンセリングを薦め、カウンセラーが対処している。

相談の申し込みの手続きは、相談を希望する学生が学生相談室に直接出向いてくるか、または健康推進室に予約を申し込むシステムになっている。予約は直接申し込むことを原則としているが、電話、メールのいずれでも受け付けている。これらの手続きや相談日は、学生便覧に記載すると同時に学生相談室の案内ビラにも書いて知らせている。また後援会資料にも案内が載せてあり、案内を見た保護者からの電話による相談も受け付けている。

昨年度より、学生相談室の場所を校舎1階から2階の健康推進室隣りに移動した。場所については、

他の部署との兼ね合いがあつての移動ではあつたが、健康推進室を利用している学生をよりスムーズに学生相談室につなぐことが出来るようになった。ただし、人通りが多くなったため、入退出時には来談者のプライバシーの配慮が必要となった。学生相談室専用の掲示板は廊下の目立つ位置に置かれていて、自然な状況で掲示板を見ることができるようになっている。

現在のところ、学生相談室は面接室を兼ねる1室のみであるため、ドアの外に面接中である旨の札を垂らして後から来る人に知らせている。またドアのすぐ内側に衝立てを立てて、中の人と後から訪ねて来た人とが不意に顔を合わせることをないように工夫している。来談者がいないときには、カウンセラーが在室である旨を表示するようにしている。なおカウンセラーが来校していない時や緊急時には健康推進室へ連絡してもらうようにしている。実際に学生相談室を利用しようとしている学生の中には、他人の目を気にする人もいて、気軽に利用してもらうために十分な配慮が必要とされる。

2) 活動状況

a. 心理検査

希望する学生を対象に、心理検査を実施している。備え付けの検査は以下の通りである。

性格検査	ストレス・チェック検査	その他の検査
・ Y-G 性格検査	・ STAI	・ SDS 職業適性自己診断テスト
・ クレペリン検査	・ CMI 健康調査表	
・ TAT	・ SDS	
・ 東大式エゴグラム (TEG)	・ CES-D	
・ MMPI	・ MAS	
・ ロールシャッハ		
・ PF スタディ		

このうちよく使用する検査は、東大式エゴグラム (TEG) で、これは交流分析の理論を元に5つの因子で形作られるパターンによって自我状態をとらえる質問紙テストである。60項目の簡単な質問に答えて得られるエゴグラムパターンを基に自画像の把握がしやすい。性格診断としてだけでなく、自己分析をしたり、行動パターンの修正・改善の指針をも得られるように工夫してある。

b. 心理面接

心理検査や性格検査に関する面接の他に、継続的な面接による心理的サポートも行なっている。この心理面接で扱った主な内容は、健康面、対人関係での悩みについて等であった。近年、編入学や就職などの進路に関する相談が減り、健康面や対人面での相談が年多くみられている。対応としては、生活リズムが崩れている学生も多く、本人とともに生活面の見直しを行う作業を行わない場合によっては病院を紹介することもある。また、対人面では経験不足の学生もおり、本人の主張を傾聴しつつ、相手の気持ちを代弁し、他者の立場を理解する視点を支援している。

c. 本による啓蒙

本による啓蒙活動が行なえるように、学生相談室に本を揃えている。

学生相談室の本棚に備えてある心理学関係の書としては、

- ・ 雑誌「こころの科学」約 140 冊、
- ・ 性格や人付き合いの本など約 80 冊
- ・ マンガなど心理学の読み物 24 冊、
- ・ 留学・編入学関係雑誌 5 冊

等が用意されている。

まだ蔵書数は多くないが、興味を覚えた学生には貸し出している。学生の活字に対する親和性には個人差が大きく、本を借りていく学生の数は多くない。

d. 広報活動

広報活動では、相談活動が特別なことではなく日常のものであるという認識を育てていくことが重要と考え努力している。本学での具体的な働きかけとして、今まで入学時や秋学期のガイダンスで学生相談室の存在をアピールしてきた。また、キャンパスガイドや本学のホームページに学生相談室の案内を載せたり、学生相談室便りを廊下等に掲示したりゼミの先生に配布している。また、カウンセラー

が面接の空き時間を利用して健康推進室に赴き、健康推進室を訪れた学生と自然な形で接し、認知度を上げたり来談動機を高めたりするきっかけ作りをしている。

さらに、一昨年より健康診断の心理的な項目にチェックした学生をスクリーニングし、面接につなげる積極的な活動も行っている。その際、大学の業務システムの“学生呼出”を使用し、呼び出しを行っている。この“学生呼出”は、カウンセラーの来学を知らせることに活用している。

3) 利用状況

平成 25 年度の来談件数は延べ 80 件であった。相談件数は昨年度より大幅に増えたのは、健康診断後のスクリーニング面接によるもので、通常面接との境界が曖昧な場合もあるため、件数に含めたためである。月別来談件数は表 1 に示してあるように、5 月と 7 月にピークが見られた。前者は健康診断で心理的な項目にチェックした学生を呼び出し、確認をしたこと、後者は講義等で学生相談室を紹介され、興味を持った学生が友人と共に心理検査を受けに来たためである。健康診断の心理的な項目にチェックした学生は学生なりの SOS を出していると捉え、必要に応じて継続面接につなげるよう促している。また、大学に出て来られない学生に対して電話やメールでの対応を行った。

1 年間の相談件数を相談内容別にみると、表 2 で示しているように継続来談者の精神的健康のサポートがもっとも多く、その次に対人関係の相談が多かった。近年、青年期のメンタルヘルスで注目される対人恐怖症、発達障害、人格障害などに悩まされる学生が本校でも増えてきた印象である。その学生への集団内の適応、コミュニケーション能力の向上、ストレスに対するセルフ・コントロールなどを試み、援助してきた。次に多かった相談内容としては性格があげられ、心理テストを通して自己理解を深める作業やよりよい方向へと自分の考え方や行動パターンを変えていくこともある。進路に関しては、今年度はそれを主訴する学生はいなかったが、話題の中で就職に関する不安を語る学生が多かった。

相談形態別では、表 3 に示すようにすべての相談は基本的に個人面接であり、心理検査の枠で東大式エゴグラム (TEG) を行ったのが 20 件であった。電話相談やネットによるメール相談も必要に応じ、対応できるようにしており、今年度は利用があったため対応を行っている。

来談者の内訳を性別でみると、80 件のうち、男子 30 件、女子 50 件で、昨年度同様男子が少ないものの割合は増えている。様々な啓蒙活動により男子学生の心理面接への敷居が低くなっているためと考えられる。

心理検査は学生の希望により実施することが多く、その結果は学生へ FEED BACK することで、学生の自己理解、自己受容の資料として使われている。ただしその際、将来、問題を抱えた場合、学生相談を活用できるよう、簡単なオリエンテーションを行い、速やかな危機介入ができる体制作りを努めている。

4) 今後の課題

学生相談室は健康推進室と連携し、学生の心身の健康維持に対処するとしている。非常勤カウンセラー不在中は健康推進室で学生の動向を把握し、日常的なケアを行なっている。しかし、週 1 日のカウンセラーの来校する時間を有効に活用するためには、学生相談室と健康推進室の緊密な連携や情報交換が欠かせないものである。その理由もあり、昨年度より健康推進室の隣の部屋を確保している。このためカウンセラーの在室日に健康推進室を利用した学生を学生相談室につなぐ等、連携をかなりスムーズに行えるようになってきている。また、面接のない時間帯にカウンセラーが健康推進室に顔を出しやすくなり、学生相談室への来談動機を高めるきっかけ作りへつながっている。

また、一昨年度より健康診断の心理的な項目にチェックした学生を呼び出すこと始めた。心理的問題を持つ学生を早期に発見し相談につなげる試みである。最近では、男子学生も心理的な気がかりを自らチェックする傾向になってきているように思われる。今後は男女問わず、心理的問題を抱えるが健康診断アンケートにチェックをしていない学生へのアプローチが課題である。このためには各ゼミの教員との連携を図る必要がある。

今年度も、数名の教職員と連携して学生の対応を行う事ができたと考える。今後ともカウンセラーが教職員と接する機会を増やし、気がかりな学生について教職員と健康推進室・学生相談室が連携していく基礎を作って行きたい。

表1 2013年度来談者の月別延べ人数

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月
男	1	5	2	7	1	3	5	3	3
女	0	16	7	16	0	2	4	2	3

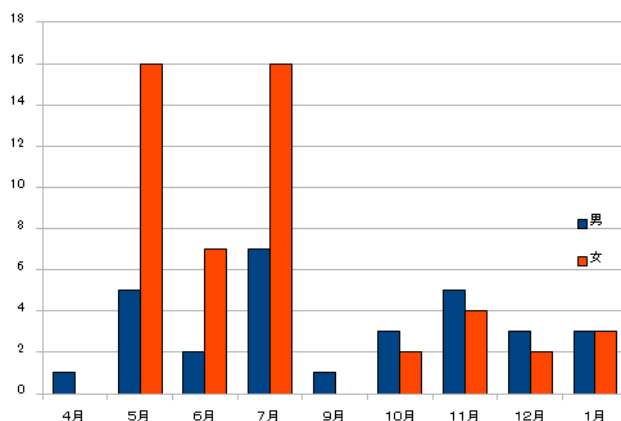


図1 2013年度来談者の月別延べ人数

表2 2013年度相談内容別の来談件数（重複可）

相談内容	適性	性格	健康	進路	学業	対人関係	その他	合計
件数	0	0	43	4	1	12	20	80

表3 2013年度相談形態別延べ人数（重複可）

相談内容	心理面接			心理検査			合計
	個人面接	電話相談	代理相談	TEG	Y-G 性格検査	CMI 健康検査	
件数	57	1	2	20	0	0	80

（9）学生生活支援に関する現状と今後の課題

2011年度より、学生支援室を3号館2階に移動し、見晴らしのよい2階のフロアーを学生ラウンジとして学生に開放した。学生同士の憩いの場として、2012年度にかけて様々な備品を整備した結果、自販機、アルバイト情報などの案内板、遊具（ビリヤード台、サッカー台）、大型テレビ、ソファ・テーブル、グランドピアノ、数台のPC、電子レンジ、給湯ポットなどの設置を完了し、2013年度も学生利用が増加している。今後も学生の福利厚生施設の充実に努めていきたい。

現状と今後の問題点としては、やはり学内での喫煙の問題がある。本学では、未成年者が多数を占めており、社会情勢に照らし合わせて敷地内完全禁煙を実施しているが、一部のベランダや部室近辺、グランド周辺で年間を通じて吸殻が見受けられるなど、前年度と比較すれば減少したものの喫煙者の違反

が継続して見受けられる。学則で厳しい対応をしていくことも視野に入れながら、教育的指導の中でどこまで対応していけるかがここ数年の課題となっている。

学生相談については、2010年度より eメールによる相談受付など、健康推進室との連携を図りながら運用したが、メールによる相談はほとんどなく、現実には学生の直接の健康推進室への訪問による相談に集中している状況が続いている。現在、担当の指導教員と健康推進室及びカウンセラー室が連携をとりながら、問題を抱えた学生への対応を行っているが、年々、心の病や不安を抱える学生の比率が高まってきており、健康推進室の負担が大きくなってきている。また経済的に厳しい状況を抱えた学生の比率も増加してきており、学費納金制度や奨学金制度の見直しなども今後の検討課題の1つとなっている。

4. 進路の支援

(1) 進路支援のための組織体制について

本学では、学生の進路支援全体を統括する組織として、キャリア委員会を設けている。同委員会は、学生の進路全般を支援し指導することを目的とし、進路を担当する専任の教員と事務職員で構成されている。2013年度の同委員会の組織体制は、7名の委員で構成され、内訳は国際文化学科教員3名、情報処理学科教員2名、事務職員2名となっている。

同委員会の主な進路支援としては、以下のものがある。

- ① 進路（就職・進学）についての情報収集と分析
- ② 進路指導（進路相談、進路の斡旋、書類作成指導、面接指導など）
- ③ 両学科共通科目：初年次教育「キャリアプランニング」、補助科目：キャリア教育「キャリア研究A・B」（就職コース・編入コース）の立案と実施
- ④ 企業訪問・企業開拓の実施
- ⑤ 企業実習の企画と実施
- ⑥ 保護者との進路相談会の企画と実施
- ⑦ 学校推薦による就職希望者・大学編入指定校推薦希望者の選考
- ⑧ その他、進路についての支援全般

また、本学では学生生活全般における支援活動を全般的に担う部署として、キャリア委員の教職員が常駐する学生支援室を設置している。学生支援室の一機能として、進路委員の教職員が常駐し、主に企業からの求人や大学編入などの情報の公開、就職の斡旋、就職相談と指導、学生の進路動向調査、学生情報（進路登録カード、進路アンケート調査、受験報告など）の保管といった支援業務を行っている。

なお、学生の就職活動状況やその結果（内定・合格等）、学生支援室での指導内容等については、本学が運用する「学生カルテ（SRMS）」を通じて関係する教職員に配信され、教職員間における進路情報の迅速な共有化が図られている。

(2) 学生支援室における就職情報等の提供について

学生支援室の役割は多岐にわたるが、その中でも就職情報の収集と提供は最も大切な業務である。学生支援室では、短大に送付されてくる企業からの求人情報に加え、福岡県学生職業センターで公開されている求人情報のほか、九州各県の様々な求人情報を収集し学生に提供している。こうした求人情報は、学生の閲覧用としてプリントしたものを、各ファイルにまとめて学生支援室に設置し公開している（複写は無料となっている）。中でも、特に重要度の高い求人情報については、学内 Web サイトに求人票受付情報を随時公開し、希望する学生には、携帯電話のメール機能による求人情報の配信サービスも行っている。

また、企業情報については、学生支援室の書棚に約400社の企業を業種別にファイルにまとめて公開している。過去、学生が採用された企業のファイルには、年度別に色別のシールを貼り、会社の概要を記載したパンフレットとともに受験した学生の受験報告書（筆記試験や面接内容などが記載）を添付している。なお、個人情報の守秘義務により、学生名は削除して公開している。

そのほか、学生支援室では、就職説明会や採用情報に関する各種ポスターの掲示、各種就職情報誌、書籍（業界本、一般常識・SPI問題集など）を設置し、書籍の貸し出しサービスも行っている。

一方、編入学を希望する学生に対しては、全国の主要4年制国公立大学及び私立大学から送付されてきた編入受け入れ案内や推薦依頼をもとに、学生ポータルサイトの「編入情報」の項目に整理して掲示している。特に、当該年度に全国の大学から届いた新しい編入情報は、表示の色を変えて内容を更新しているほか、推薦の募集だけ抽出したデータも用意するなど、学生にとってわかりやすくなるよう工夫を行っている。学生支援室内においても、各大学の募集要項や資料を公開しているほか、学生の希望に応じて、受験用資料や応募書類を学生支援室が大学から取り寄せている。

(3) 進路支援の内容について

1) 就職支援

学生の職業観の確立とともに、幅広い基礎学力と教養を身につけることにより「将来の人生設計を自分で考えることのできる能力」と「目標達成に向けた就職活動のノウハウ」を、「キャリアプランニング」、「キャリア研究A」を通じて養成している。具体的内容としては、就職状況や雇用環境などの理解、自己分析、小論文や作文の書き方、一般常識などの基本知識習得、活動のための情報収集法、履歴書・志望動機などの書類作成支援、面接対策などである。早期に就職活動を開始し、内定を勝ちとるためには、学校の支援を待つのではなく、自主的に活動を以下に行っているかが極めて重要である。上記授業等を通じて、自主的な活動をフォローすると共に、個々へのきめ細かな支援を行っている。また、求人情報については、定期的実施する希望調査アンケート及び学生カルテ（SRMS）の情報をベースに、個々の学生に応じた適切な求人紹介を行っている。

2) 進学支援

東海大学を始めとした国内4年制大学への編入学や、海外留学（海外の大学への編入学や語学学校進学等）、専門学校への進学など、進学全般に対する学生指導・支援活動に関しては、就職支援同様、キャリア委員会が統括している。キャリア委員会の統括の下、実質的な教育指導を担当する進路対策科目群（「キャリアプランニング」「キャリア研究A」「キャリア研究B」）、4年制大学や各種学校に関する情報の提供、募集要項や受験記録の保管、書類の発送などの支援業務を担う学生支援室、そして、学生個々の希望や適性に関する情報収集と個別指導に責任を持つ指導教員が、それぞれ連携を図りながら支援活動を進めるという体制である。経済的な事情等により、卒業後の進路志望（就職・進学等）の途中変更は数多いが、上記のような連携体制によって充分に対応できている。

進路対策科目群では、国公立大学編入クラス、一般進学クラス（東海大学・その他私大・専門学校等）、留学クラスの3つのクラスを設け、科目担当の教員による、大学・留学先研究、目的意識の醸成、書類作成、学科試験対策、小論文対策、面接指導といった、大学編入・海外留学・専門学校進学に必要な様々な指導がなされている。また、各学生が希望する進路に応じて、各専門の教員が自主的に開講している勉強会（英語・数学・情報・会計等）に誘導し、主体的な学習意識の向上を図っている。さらに、キャリア委員及びゼミの指導教員が、ゼミやオフィスアワーの時間を利用して学生個別の指導にあたっている。

特に、卒業後の進路として海外留学を希望する学生に対しては、上記進路対策科目群のほか、キャリア委員会及び学生支援室が窓口となって、学内の外国人教員や留学経験の豊富な日本人の教員との協力のもと、海外留学へのアドバイスや個別の指導を行っている。

(4) 企業実習

1) 概要

国際化の進展、高度情報社会の到来など、社会情勢の変化にともない、企業の雇用環境が大きく変わりつつある中で、学生の進路選択の指針として、企業における就業体験の重要性が従来以上に注目されている。本学では、社会と連動した実践的な教育という視点から1999年度からインターンシップ（企業実習）を実施しており、2013年度については1年生を対象に、春期休暇期間中（2月）に実施した。

2013年度は、企業実習希望者のうち、面接により受け入れ企業の実習内容等を説明、実習の目的意識等を総合的に判定し、国際文化学科2名、情報処理科7名を選考し、2013年2月の2週間程度の期間、実習を行った。受け入れ企業側にも、事前折衝を綿密に行うことで、企業実習の意義をよりいっそう理

解していただいた結果、従来以上に充実した指導体制や実習プログラムで企業実習を実施することができた。また、企業実習後の学生のレポートでも、企業実習の意義は高く評価されている。

履修した学生から提出された企業実習報告書や研修報告会では企業で働くことの厳しさ、企業人としての自覚、社会人として責任の重さを認識したことや自己の職業適性や将来設計について主体的に考える機会となったこと等が報告された。また、実習生に対する企業側の評価も「真面目に仕事に取り組む」、「積極性がある」、「短期間での成長が見られる」など概ね良好であった。

また、2013年度より九州グローバル人材産業協議会(九州経済連合会など主催)に会員として登録し、九州グローバル人材産業協議会が8月、9月に実施するインターンシップに4名の学生が参加した。このインターンシップは企業と学生にマッチングを経たものであり、双方にとってメリットのある取り組みであり、今後も継続していきたい。

2) 実施状況

両学科とも補助科目「企業実習」として2 Semester集中として開講した。企業等での実習や研修的就業体験を通して、「職業とは何か」や「自己実現と職業との関わり」等について認識を深めるとともに、個人の自立に不可欠な職業観の確立を目指すことを目標とした。

具体的には、(1) 社会や企業に対する理解の促進 (2) 職業適性の確認と職業意識の確立 (3) 責任感や自立心の醸成 (4) 「どう生きるか」について真摯に思考することなどが目標として上げられる。

履修は本学と協定した企業や団体等とし、企業担当者との実施期間、プログラム内容など基本的な事項について協議した実施要領に基づき、事前研修として企業実習の目的のほか留意事項などの説明等、事後研修として企業からの評価書、企業実習報告書、体験発表などを学科委員で総合的に評価し2単位を認定する。

2013年度企業実習先一覧

No	企業実習先	実施期間 (いずれも 2014 年)	参加者所属学科
1	(株) ツーリスト エキスパーツ	2月17日(月)～2月24日(月)	国際文化学科
2	(株) JTB九州	3月3日(月)～3月7日(金)	
3	Vsports プロボーザル	2月3日(月)～2月17日(月)	情報処理科
4	医療法人社団原道会 摩利支病院	2月12日(水)～2月25日(火)	
5	(株) ゼネラルアサヒ	3月3日(月)～3月14日(金)	
6	東海大学附属第五高等学校	2月17日(月)～2月28日(金)	
7	東海大学附属自由ヶ丘幼稚園	2月17日(月)～2月28日(金)	
8	宗像地建(株)	2月15日(土)～2月24日(月)	

3) 今後の課題

企業実習については、参加側の学生の意識向上及び受入先企業の理解が広がり、一定の成果をおさめている。しかし、近年になって、企業実習参加者の減少が目立っており、インターンシップのあり方を考え直す時期に来ていることが指摘される。学生がインターンシップを敬遠する背景のひとつに、業種によって学生の期待と実際の実習との間に大きな乖離があることがあげられる。本学の企業実習では、学生の希望に応じて、受入側の企業と折衝をすることにより、学生の希望に応じた実習を可能にしているが、実習先の一部企業への集中や、年度ごとの希望業種の変化が大きく、受入が難しいケースが増加している。また、2013年度は秋学期に開講される正規授業としての「企業実習」のみが単位認定の対象であるため、九州グローバル人材の協議会のインターンシップに参加した学生への単位付与は行われていない。現在、インターンシップは各企業も積極的に取り組みつつあり、各企業あるいは各種協会等が様々な形で年間通じて実施されてきている状況である。次年度に向けて、学生のインターンシップへの積極的な参加を促進する上で、単位認定の制度について見直すと共に、企業実習の実施体制について再検討していく必要がある。

(5) 進路決定状況

情報処理科 (過去3カ年)

(2014年3月31日現在)

区分			2011年度		2012年度		2013年度	
a	32人	(割合)	32人		34人		20人	
b	就職希望者数	b/a	20人	(62%)	22人	(65%)	12人	(60%)
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b	9人	(45%)	5人	(23%)	5人	(42%)
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b	7人	(35%)	12人	(55%)	4人	(33%)
e	うち就職未定者	e/b	4人	(20%)	5人	(23%)	3人	(25%)
f	進学・留学希望者数	f/a	8人	(25%)	4人	(12%)	4人	(20%)
g	うち進学・留学決定者数	g/f	7人	(87%)	4人	(100%)	4人	(100%)
h	うち進学・留学先未決定者数	h/f	1人	(13%)	0人	(0%)	0人	(0%)
i	そのほか	i/a	4人	(13%)	8人	(24%)	4人	(20%)

国際文化学科 (過去3カ年)

(2014年3月31日現在)

区分			2011年度		2012年度		2013年度	
a	卒業生数	(割合)	59人		42人		52人	
b	就職希望者数	b/a	30人	(51%)	20人	(48%)	18人	(35%)
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b	7人	(23%)	6人	(30%)	9人	(50%)
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b	19人	(64%)	12人	(60%)	7人	(39%)
e	うち就職未定者	e/b	4人	(13%)	2人	(10%)	2人	(11%)
f	進学・留学希望者数	f/a	21人	(35%)	16人	(38%)	22人	(42%)
g	うち進学・留学決定者数	g/f	18人	(86%)	13人	(81%)	22人	(100%)
h	うち進学・留学先未決定者数	h/f	3人	(14%)	3人	(19%)	0人	(0%)
i	そのほか	i/a	8人	(14%)	6人	(14%)	12人	(23%)

※ 卒業生数は、各年度に卒業した学生数を示す (過年度卒業・秋学期卒業を含む)

2013年度 就職先 (業種別)

業種分類	情報処理	構成比	前年比	国際文化	構成比	前年比
鉱業・採石業	0	0%	±0%	1	6%	+6%
建設業	0	0%	-12%	0	0%	±0%
製造業	2	22%	-2%	2	13%	+13%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0%	-6%	0	0%	-6%
情報処理業	0	0%	-17%	0	0%	±0%
運輸・倉庫業、郵便業	2	22%	+22%	1	6%	+6%
卸売業、小売業	0	0%	±0%	1	6%	±0%
金融業、保険業	0	0%	±0%	0	0%	±0%
不動産業、物品賃貸業	0	0%	-6%	0	0%	±0%
学術研究、専門・技術サービス業	1	11%	-1%	0	0%	±0%
宿泊業、飲食サービス業	1	11%	+5%	1	6%	-5%
生活関連サービス業、娯楽業	0	0%	±0%	6	38%	-1%
教育、学習支援業	0	0%	±0%	1	6%	-10%
医療、福祉	2	22%	+5%	0	0%	-6%
複合サービス事業 (JA)	0	0%	±0%	1	6%	+6%
その他のサービス業	1	12%	+12%	1	6%	-10%
公務	0	0%	±0%	1	7%	+7%
計	9	100%		16	100%	

2013年度 就職先（職種別）

職種分類	情報処理	構成比	前年比	国際文化	構成比	前年比
製造技術者	1	11%	+11%	0	0%	±0%
その他の技術者	0	0%	±0%	1	6%	+6%
情報処理技術者	0	0%	-17.6%	0	0%	±0%
保険医療従事者	0	0%	±0%	0	0%	±0%
事務	7	78%	+30.9%	5	31%	+14.3%
販売	0	0%	-11.8%	4	25%	+8.3%
その他のサービス	1	11%	-6.6%	6	38%	-17.5%
保安	0	0%	±0%	0	0%	-11.1%
建設従事者	0	0%	-5.9%	0	0%	±0%
計	9	100%		16	100%	

編入実績表（過去3カ年）

	2011年度		2012年度		2013年度	
	情報処理	国際文化	情報処理	国際文化	情報処理	国際文化
国公立大学	2	2	0	1	0	1
東海大学（学园内編入）	3	4	2	2	2	7
他の私立大学	2	5	1	5	1	5
小計	7	11	3	8	3	13
合計	18名		11名		16名	

編入実績表（2013年度詳細内訳）

人数	進学状況	学部名	学科名	情報処理 学科	国際文化 学科
学园内編入 9名	東海大学	観光学部	観光学科		1
		教養学部	国際学科		1
			人間環境学科社会環境課程		1
		情報理工学部	情報科学科	1	
		情報通信学部	情報メディア学科	1	
	総合経営学部	マネジメント学科		4	
他大学編入 7名	佐賀大学	文化教育学部	人間環境課程 生活・環境・技術選修		1
	久留米大学	文学部	国際文化学科		2
		経済学部	文化経済学科		1
	西南学院大学	国際文化学部	国際文化学科		1
	福岡大学	人文学部	東アジア地域言語学科		1
福岡工業大学	社会環境学部	社会環境学科	1		

※人数は合格者延べ人数を示している

(6) 進路指導全般に関する現状と今後の課題

就職に関しては、新規学卒者の就職状況は少しずつ回復の兆しが見え始めたものの、実際、短大に送られてくる企業の求人は増加しておらず、その数少ない求人に対して4年制大学出身者とも競合しており、本学学生にとって相当に過酷な情勢にある。2013年度は、短大に送られてくる求人票に限らず、リクナビ、マイナビ、学生職業センター、ハローワークといったインターネットの就職情報サイトを中心に、求人情報誌、新聞の折り込みチラシ等あらゆる就職情報の媒体を活用しながら、就職支援を行ってきた。その甲斐もあって、最終的な就職決定率としては、昨年度からさらに改善が見られた。なお2014年度に向けた対策として、教職員側からのややもすれば一方的になりがちな指導だけに頼ること無く、学生個々の状況に対応しながら、学生の主体的な活動を促すための方策を矢継ぎ早に打ち出していく必要がある。方向性としては、後援会・同窓会（OB/OG）との協力関係を基軸に、より身近な実務社会の姿を体感する機会を創りあげていくことを検討している。

進学、特に4年制大学への編入に関しては、今年度も決定率100%を達成することが出来た。特に国公立大学や近隣の私立大学のうち、高いレベルを要求する大学への進学実績を示せたことは大きな成果である。

しかしながら、全体的に見ると、大学編入に関する目的意識の希薄な学生は増加傾向にある。事実、受験計画から出願、受験指導まで、手取り足取りの指導を求める（必要とする）学生も多い。このことは、編入学指導の人的コスト増加だけでなく、学生の編入後の学修や卒業後のキャリアにも悪い影響を与えるものとして、大きな問題だと認識している。キャリア委員会としては、この問題への対応策として、学生相互の教え合い・刺激の与え合いによって学生の主体性を惹起することを、進路対策科目群の内外で実現していく方針である。その他、入学早期からの志望先調査や、志望分野と関連の深い科目の学修、授業外学修活動を促進していくことにより、進学希望先のミスマッチ解消を図っていききたい。さらには、大学編入試験に合格することだけを目標にするのではなく、編入後、さらに実力を伸ばしていけるだけの素地を育んでいきたいと考える。

次に、海外の大学への編入学について、今年度3名（白石大学観光学部）合格している。また、語学留学は5名（韓国3名・台湾1名・カナダ1名）であった。留学を本学卒業後の進路として考えることについて、学生のニーズとしては増加の兆候も見られるが、キャリア委員会としては、卒業から実際の渡航・入学までのタイムラグ（9月入学のケースも多い）もあり、卒業後（留学後）のケアをどのように行うべきか、本学の役割について再考する必要があると認識している。

その他、専門学校を志望する学生は毎年一定数存在するが、今年度も個別指導の徹底がなされ、専門学校の特性やリスクについて十分理解した上で送り出したものと考えている。

5. 多様な学生に対する支援

多様な学生の受け入れ状況

種別	2011年度	2012年度	2013年度
留学生（人）	4（1）	5（1）	7（2）
社会人（人）	2（0）	0	1
障害者（人）	0	0	0
科目等履修生（人）	12	4	2

※カッコ内の数値は当該年度秋学期入学生 ※科目等履修生は春・秋の延べ人数

基本的に、すべての学生への指導や支援は、担当する指導教員を中心に行われる。しかし、特に留学生等の指導に関しては、指導教員個人では対応できる範囲を超えているので、語学担当のネイティブの教員、また特に生活指導に関しては、学生委員会及び担当の事務職員が加わって、集団指導体制で行っている。

6. 特記事項

(1) 学生カルテ

本学では、1999年より学生カルテ（Student Relationship Management System / SRMS）を自己開発・運用している。

1) 学生カルテの目的と開発

本学では、学生の夢と希望をかなえるため、教職員全員での指導体制をとっている。従来の「指導教員のみが指導にあたる」から「部署や業務分掌を超えての指導を行う」に体制を変化させてきた。ここで重要なのは、短期大学は在籍期間が2年間と短いため、的確な指導をリアルタイムに行う必要があることである。その実現には、全学的な規模での情報共有が不可欠であり、その情報共有をサポートするシステムが求められる。そのような中で学生カルテシステムが誕生した。

今日では学生カルテシステムを本学の教育システムの中核とし、学生の生活面から学修指導、進路指導まで幅広く全学的に活用している。その活用の中で、学生を的確に指導できるかのポイントは、システムの存在そのものよりも、それに蓄積される情報の数と有効性・リアルタイム性、さらにその情報がいかに活用されるかという点にある。すなわち、システムとその運用スタイルの両立が重要である。

学生カルテは3つに大別して学生情報を管理している。1つ目は学生の学修情報である。学修情報はさらに教科別に管理されており、受講状況、出席状況、学修の進行状況などを記録する。また、eラーニングによる開講科目については、メンタリングやその他の学習指導状況などの記録を義務付けている。二つ目は進路情報である。学生の進路希望や指導内容、及び学生個々の就職・進学活動の履歴などを記録している。三つ目は生活情報である。先の2つに分類されない情報をここに記録する。例えば、資格取得情報、サークル活動、そのほかイベント等への参加状況など様々である。また、オープンキャンパスや進学相談会などで入学前の学生（生徒）と接する機会も多く、このときの面談状況も学生カルテに記録している。入学の時点において、学生のある程度の情報を得ることにより、学生の将来目標に向けた適切なゼミナールに配属するための措置である。

また、一般的に学生カルテと呼ばれるものは、学生の成績が記録されている場合もあるが、本学の学生カルテには最終成績（評価）は殆ど記録されていない。なぜなら成績は結果であり、その結果を得た後での指導では遅すぎるからである。あくまでも我々が重要と考えるのは、その結果になるまでの途中経過をリアルタイムに知ることであり、その途中の段階で指導を行う必要があるからである。このような観点から、学生カルテに記録する上記3つの項目はすべてテキスト形式となっており、記録者の主観を書き込むようになっている。

2013年度からはeポートフォリオを用いた進路（就職・編入）活動サポートの機能を開発して学生カルテとシームレスな運用ができるよう試みた。

2) 学生カルテ運用の効果

学生カルテ運用の最大の効果は、学生の学修状況・生活状況の把握が容易かつ広範囲になったことである。この活用により、その学生が履修している科目全体にわたり学修状況が把握できる。従来は教員間の個人的なつながりによってのみ成立していた学生情報の共有が、大学の教育システムとして組み込まれたことにより、指導を要する学生の早期発見が容易になった。

学生カルテによりどの学生が、どの教職員からどんな指導を受けているのかが把握できるようになり、教職員間で共通認識のもとでの学生指導ができる。学生も、教員間の指導の違いによる困惑がなくなる。これにより、学生から教員・大学への信頼度向上が期待できる。

年に1・2回実施される保護者との懇談会でも、学生カルテの情報を参照しながら行うことにより、的確に行えるようになる。特に、県外で実施される懇談会では、指導教員が参加するとは限らず、このようなケースでも学生カルテが有効に活用されている。同様に、日常的に、保護者からの問い合わせに対応できるようになる。さらに、保護者からの信頼度向上も期待できる。

3) 運用実績

2013年度の学生カルテの利用実績は、次のとおりである。

適用	情報処理学科	国際文化学科	事務職員
生活情報	696	182	619
学習履歴	2,325	187	0
進路指導履歴	656	58	106

SRMS運用開始後から2012年度末までの登録情報数の推移を示す。2005年以降「生活」に関する情報数が減少しているのは、2005年に新規に「学習」の categorie を新設し、従来「生活」に登録していた情報が「学習」に記録されるようになったためである。下記のように学生一人あたりの登録情報数が年々増加している。

データ登録数の推移

年度	在籍数	登録						参照								
		生活	学修	進路	生活/人	学修/人	進路/人	一括	生活	学修	進路	一括/人	生活/人	学修/人	進路/人	
2000	508	747	-	-	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2001	417	528	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2002	368	675	-	114	1.8	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2003	337	595	-	446	1.8	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2004	310	657	-	705	2.1	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2005	341	2,742	1,228	739	8.0	3.6	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2006	340	1,992	2,080	1,229	5.9	6.1	3.6	3,398	632	792	971	10.0	1.9	2.3	2.9	
2007	303	1,229	3,595	1,060	4.1	11.9	3.5	3,852	506	776	499	12.7	1.7	2.6	1.6	
2008	305	1,365	4,097	1,077	4.5	13.4	3.5	3,555	458	525	407	11.7	1.5	1.7	1.3	
2009	246	1,414	2,674	875	5.7	10.9	3.6	5,233	264	373	292	21.3	1.1	1.5	1.2	
2010	204	1,267	2,164	706	6.2	10.6	3.5	3,919	283	238	293	19.2	1.4	1.2	1.4	
2011	191	1,757	3,131	668	9.2	16.4	3.5	3,050	200	260	195	16.0	1.0	1.4	1.0	
2012	166	1,016	2,871	419	6.1	17.3	2.5	12,564	216	373	198	75.7	1.3	2.2	1.2	
2013	155	1,621	2,511	828	10.5	16.2	5.3	16,674	443	273	302	107.6	2.9	1.8	1.5	

※ 表中の-は、その機能未整備あるいはログ未調査を意味する。

(2) 成績不良者への支援

本学では、入学時より少人数での指導教員制度をとっている。これまで指導教員は、学生一人ひとりの学修面・生活面を把握し、1年次は「フレッシュマンゼミナール」、2年次は「卒研ゼミナール」の授業時間等を利用して指導にあたっていたが、2012年度入学生より授業以外での指導教員の役割を明確化し、2013年度もその流れを継続した。成績不良者や欠席が目立つ学生に対しては、その原因を探り、科目担当教員や健康推進室と連携を取り、学科会議での報告などで出席状況の改善を図っている。度重なる指導にも応じない場合は、単位不足とならないよう保護者も交えて指導することもある。成績不良者のなかには、留学生など経済面での支援の必要がある学生や、生活面で改善努力を必要とする学生、さらには心身面で問題のある学生など、その要因については学生個々により違うため、今後もより一層指導教員と他部署、科目担当教員、健康推進室との連携が欠かせない状況である。

(3) 学生に対する表彰制度

本学では課外活動や資格取得等で、顕著な成績を残した学生を建学記念式典で表彰している。また、学位授与式では、在学中に成績・人物共に優秀な学生を総長賞・学長賞として表彰している。総長賞・学長賞表彰内容は次のとおり。

受賞項目	学科	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
東海大学 総長賞	情報処理工学科	合屋 香織	沖永 南	平山 浩子	石崎 栞	崎山 亜美
	国際文化学科	馬場 厚子	松本 彩香	大東 美穂	高波 里穂	李 侑香
東海大学 福岡短期大学 学長賞	情報処理工学科	松浦 里佳	上原 みさき 阿部 哲哉	福元 菜央 大羽 麻季	早川 智美	末武 弓佳
	国際文化学科	加藤 由紀 松本 昇平	吉川 愛 永野 叶絵 麻生 直人	水野 桜子 久富 漢子 笹渕 翔吾 西川 敬太	中嶋 美優 澤田 美和	西 真奈美 岩崎 美香

(4) 学生生活に関する学生の意見や要望の聴取（大学評価アンケート）

本学に対する満足度について、学生による「大学評価アンケート」を毎年度末に1回実施している。2013年度の集計結果は次のとおり。（その他、記述式の設問も有り）

2013年度 学生による大学評価アンケート集計結果（アンケート回収：114）

学 科 別	情報処理工学科	20	国際文化学科	86
性 別	女性	79	男性	27
学 年 別	1年	52	2年	54
出 身 学 校 別	公立高校	41	本学付属	20
	本学付属以外の私立	34	その他	11
入 試 種 別	A〇入試	21	一般入試	15
	推薦入試	30	給付奨学金入試	16
	付属推薦入試	21	その他	2
住 居 形 態	自宅	51	自宅外	52
所 属 団 体	学友会役員	8	クラブ・サークル参加	59
	その他行事委員	2	その他	35

※▼印部分は昨年度の数値より低い項目	13 平均	情報処理	国際文化	12 平均
Q2. これまでの学生生活で次の点をどのくらい重視していますか				
①専門的な知識や技能を修得すること	3.89	3.95	3.87	3.33
②資格を取得すること	3.78	3.70	3.80	2.20
③交友関係を深めること	3.89	3.55	3.97	3.26
④教養・人格を高めること	3.84	3.45	3.93	3.68
⑤学業外の活動に取り組むこと	3.31	3.05	3.37	3.04
Q3. 上で取り上げた項目について、あなたが感じる達成度はどの程度ですか				
①専門的な知識や技能を修得すること	3.38	3.50	3.35	3.04
②資格を取得すること	3.12	3.05	3.14	2.82
③交友関係を深めること	3.88	3.35	4.00	3.60
④教養・人格を高めること	3.39	2.90	3.50	3.19
⑤学業外の活動に取り組むこと	3.04	2.65	3.13	2.46
Q4. 次の項目について、授業に対する満足度は総合的に考えてどの程度ですか				
①好きな勉強ができる	3.70	3.25	3.80	2.91

②専門的な知識や技能	3.58		3.55	3.58	2.39
③授業内容(カリキュラム)	3.39		3.35	3.39	3.03
④資格取得に役立つ	3.55		3.65	3.52	3.37
⑤実習室等の活用	3.68		3.70	3.67	3.63
⑥教え方	3.65		3.75	3.63	3.36
⑦教員の熱意	3.68		3.95	3.62	3.55
Q5. 次の項目について、学生生活についての満足度は総合的に考えてどうですか					
①学内の雰囲気	3.65		3.60	3.66	3.51
②学園行事(建学祭等)	3.44		3.25	3.49	3.34
③クラブ・サークル活動	3.29		3.16	3.31	3.00
④人間関係(友人)	3.90		3.70	3.94	2.86
⑤図書館職員	3.71		4.00	3.64	2.25
⑥事務室職員	3.83		3.95	3.80	3.36
⑦学生支援室職員	3.72	▼	3.80	3.70	3.87
⑧健康推進室(カウンセリング)職員	3.92		3.85	3.93	3.69
⑨コンピュータ実習室	3.72		3.70	3.72	3.58
⑩指導教員	4.00		4.15	3.97	3.71
Q6. 次の項目について、施設設備に対する満足度は総合的に考えてどの程度ですか					
①キャンパス	3.35		3.30	3.36	3.08
②大学周辺の環境	2.94	▼	2.65	3.01	3.05
③食堂	3.21		3.15	3.22	2.84
④図書館(閲覧室・プラザ・ラウンジ)	3.68		3.75	3.66	2.73
⑤学生ラウンジ	3.72		3.75	3.71	2.42
⑥コンピュータ実習室	3.71		4.00	3.64	3.39
⑦コモンホール トレーニングルーム	3.53		3.60	3.51	3.34
⑧コモンホール アリーナ	3.64		3.60	3.65	3.40
Q7. 次の項目について、本学全般に対する満足度は総合的に考えてどうですか					
①交通の便	3.02	▼	2.95	3.03	3.19
②教職員とのコミュニケーション	3.65		3.60	3.66	3.53
③OB・OGとの交流	2.82		2.75	2.84	2.74
④学費	2.89		2.55	2.97	2.82
⑤校風	3.13		2.90	3.19	2.94
Q8. 入学前と現在とを比較して、本学に対する期待は総合的にどうですか					
①本学に対する期待度	3.37		3.30	3.38	3.00
Q9. 講義・実習における1コマの授業時間について					
①現行の授業時間(80分) で適当かどうか	適当	80	19	61	74
	短縮・回数増	6	0	6	5
	延長・回数減	13	1	12	6
Q10. 卒業後の進路について、どのように希望しているか					
①正規の社員として就職	47		9	38	62
②契約・派遣などの社員として就職	4		2	2	4
③自営業・家業に就く	4		0	4	6
④四年制大学に編入・進学	35		7	28	16
⑤専門学校に進学	4		21	3	0
⑥その他	12		1	11	11

7. 自己点検・評価

2013年度の大学評価アンケート集計結果によると、本学に対する学生の評価は、前年度より大幅に改善されている。特に、「資格に関すること」や「専門的な知識や技能」の項目の数値の改善が顕著である。また、学生生活での満足度は総じて上昇している。改善に向けて全学を上げての取り組みが功を奏したようだ。しかし、「大学周辺の環境」、「交通の便」や「OB・OGとの交流」等に対する満足度が下がっている。特に、「OB・OGとの交流」は本学の校風を形作り、歴史を作り上げていく大事な要素としてより活発化させることが必要である。

今回の大学評価アンケートは全員参加の授業の中で実施した。当然、この種のアンケートでは、アンケート実施の形態(どの時間帯、場所)や、対象者数(母数)で評価が変わることが予想されるので、今後、大学評価アンケートは今回の様に全員参加の授業で、できるだけ同一環境で実施することが望ましい。それによって、結果に対する信頼度も高まり、経年調査としての質を担保できるのではないかと考える。

